



◎「産業建設部所管」

問 はんぎり競漕事業で、本町の魅力を広く発信することができたと考えられる理由は何か。

藤岡委員

答 新たに弓削高校が参加し、13高校が出場。中予地域以外の出場があり、少しずつではあるが魅力の発信ができています。今後、姉妹都市である「まつまえ町」にも発信できないか、検討したい。

意見

7月に開催している「まつまえ町」の小学生との姉妹都市交流事業で、はんぎり体験ができるよう、課をまたいでの検討を。

曾我部委員

問 商工振興費、委託料の不用額の原因は。

田中委員

答 はだか麦を使った6次産業化を計画し、プロジェクトを開始したが、担い手不足、施設が見つからず6次産業化に至らず不用額となった。

問 レンタサイクル事業で、貸出台数130台のうち町内、町外の利用者の内訳は。

曾我部委員

答 内訳は把握していないので確認して説明したい。

意見

補助金を出す以上、利用者の内訳と、どこを周遊したかは確認するべきである。

また、補助金216万円で

年間130台の利用では、1台当たり約1万6千円になる。そこまでして補助をする効果があるかを検証し、今後の方向性を考えては。

曾我部委員

問 ひめの凍生産拡大支援事業における、耕作面積と生産者数は。

岡井委員

答 耕作面積は291アール。認定栽培者は4名。

問 農業振興費補助金を交付している事業主体の成果は把握しているか。

住田委員

答 事業終了後には必ず実績報告書が提出されている。また、伊予農業指導班と町が連携し、途中経過を把握し、事業の進捗管理に努めている。

問 昨今の財政状況を踏まえ、補助金額の減額などの交渉は行っているのか。

住田委員

答 現在、交渉等は行っていない。補助金の交付要綱で予算の範囲内で交付をする規定になっている。

問 水産業の補助金が少ないが、町はどう考えているのか。

西村委員

答 水産業振興費の補助金もあるが、農業と比較すると水産業の方が少ない。農業に対しては国や県の事業が充実しており、そこに上乗せで町が出す仕組みとなっている。水産業を疎かにする気持ちはない。水産業も大切な産業の一つである。町ができる補助の情報収集を行ってきたい。

問 都市計画費の負担金、補助金及び交付金は、補正や流用をしている割に不用額が多いが理由は。

田中委員

答 空家除去に、当初予算で3件分を計上していたが、年度当初に申し込みが多く、2件分を充用した。

年度内に今後申し込みがあるの見込み、9月補正で予算計上したが、その後申し込みがなくなり執行残となった。



昨年の「港まつり」から

問 思い通り道路植栽維持業務とは何か。

稲田委員

答 町道西15号線と町道東84号線の樹木の剪定と除草業務である。

問 町営住宅改良住宅の滞納整理の徴収状況は。

藤岡委員

答 徴収率は96から97%で推移している。文書や電話による催促や、連帯保証人に対しても催促することで徴収率を維持している。

問 浄化槽設置整備事業補助金の不用額の原因は。また、前年度の実績で予算化しているのか。

田中委員

答 新築80件、改築32件の合計112で計画をしていたが、実績は新築74件、改築16件の合計90件であった。不用額は計画と実績の差によるものである。

また、浄化槽設置整備事業の計画は5か年で策定している。計画に基づき予算化しており、5か年の予算は同額である。